戦後の地方新聞・雑誌シリーズ7

サンライズ

函館新聞社発行　1946年12月▶1947年12月

占領期の歴史・メディア・世相に加えて、文学・文化運動、および地域研究の基礎資料！

比較的、戦禍の小さかった北海道では、道内生産の印刷用紙に恵まれ、一九四六年末、函館でも、『函館新聞』が刊行された。協力紙として背後に控える朝日新聞の影響を大きく受けながら、まもなく函館新聞社は〝健全大衆雑誌〟として『サンライズ』を創刊したが、その高水準の内容にも拘わらず、戦後出版文化史において、本誌の存在が言及されることはなかった。戦後函館と占領期メディアの在り方を映し出す、総合雑誌を復刻！

〈本誌の重要性〉

- 札幌中心の北海道出版文化史では埋もれていた、函館の実態が明らかに
- 朝日新聞の協力紙という枠組みをもつ本誌からは、「地方雑誌でありながら、東京から眺められる」という、占領期メディアの一つの在り方が浮かび上がる
- 伊藤整など、著名作家の全集未収録作品を掲載
- 生涯講演を好まなかった川端康成が、函館文化大講演会で語った内容を、補助資料として収録

三人社

復刻版
全1巻

◉解　題　石川　巧〈立教大学教授〉
◉価　格　本体22、000円＋税
◉刊　行　2020年7月刊行

戦後の地方新聞・雑誌シリーズ7　**サンライズ**　1946年12月▶1947年12月

【復刻版概要】

◉解　題　石川　巧〈立教大学教授〉
◉巻　数　全1巻　ISBN978-4-86691-263-9
◉体　裁　B5判・上製・総約320頁
　巻末に解題・総目次・執筆者索引を付す
◉価　格　本体22、000円＋税
◉原　誌　石川巧所蔵

主要執筆陣

秋山安三郎　今井達夫　飯田心美　飯島正　生澤朗　石井漠　石川滋彦　石塚友二　伊藤整　伊馬春部　臼田亞浪　上野山清貢　海野十三　江口榛一　小野佐世男　大林清　加藤武雄　金子兜太　川路柳虹　木々高太郎　北園克衛　北村小松　久保田万太郎　倉光俊夫　邦枝完二　小暮實千代　今日出海　西條八十　神西清　志摩芳次郎　末松満　サトウハチロー　更科源蔵　式場隆三郎　神保光太郎　芹澤光治良　高田保　立野信之　玉川一郎　堤千代　寺崎浩　東郷青児　徳田一穂　徳川夢聲　野崎彊　丹羽文雄　中島健蔵　南部圭之助　浜本浩　長谷川伸　長谷川幸延　服部静夫　深尾須磨子　福原麟太郎　双葉十三郎　本多顕彰　堀口大学　益子善六　丸木砂土　丸山静雄　美川きよ　三雲祥之助　水原秋櫻子　水谷準　村山しげる　村山知義　山口青邨　八木隆一郎　山口茂吉　横山美智子　吉田謙吉　吉屋信子　李家正文

関連図書復刻版のご案内

戦後の地方新聞・雑誌シリーズ5

東奥日報社 刊
［1945年～1950年］
月刊東奥【戦後版】
全4巻・別冊1
解　題　中園裕・仁平政人
体　裁　B5判　上製　総約1、400頁
揃価格　本体80、000円＋税
●推薦＝安藤宏・河西英通

戦後の地方新聞・雑誌シリーズ6

西日本新聞社 刊
［1945年～1950年］
月刊西日本
全10巻・別冊1
解　題　有馬学・松本常彦・坂口博
体　裁　B5判　並製　総約3、000頁
揃価格　本体160、000円＋税

三人社
〒606-8316
京都市左京区吉田二本松町4　白亜荘
電話 075-762-0368
FAX 075-762-0369
http://3ninsha.com/

●表示はすべて税別

ご注文は書店様または直接上記までお申し込みください。

2020/7

復刻にあたって

函館の有力者の出資と、朝日新聞社からの人材・資材の補助を受けて、一九四六年十一月に『函館新聞』は刊行された。同年十二月、函館新聞社は「健全大衆雑誌」として月刊誌『サンライズ』を創刊。著名な寄稿者を取り揃え、約2万部もの発行部数を誇った本誌の存在が、戦後出版文化史や北海道文学史において完全に忘れ去られてきた理由はどこにあるのか。戦時統合によって道内唯一の新聞社であった北海道新聞社（札幌）への対抗意識からか、『サンライズ』には札幌関連の記事はほとんど存在しない。しかしこのことは、『サンライズ』が函館に密着した雑誌であったことを意味しない。朝日新聞社の印刷用紙確保という思惑とその影響力により、『サンライズ』において語られる函館の情報の多くは東京からの視点である。同時期に発行されていた地方総合文芸雑誌とは、地元との関わりに大きな違いが感じられる。『サンライズ』に映し出される函館は、東京から「望遠鏡で眼差された」姿として浮かび上がる。創刊から二年を経たず廃刊となった『サンライズ』の、残された九冊の誌面に浮かび上がるのは、占領期日本のメディアが何を語り、何を剝落させたか、その興味深い実像である。

三人社

伊藤整 終戦直後の短編発見

全集未収録、函館の雑誌に掲載

渡島管内松前町生まれで小樽市出身の文学者、伊藤整（1905～69年）の全集未収録の短編作品が、戦後間もなく創刊した函館新聞（46～54年）が発行した総合文芸誌「サンライズ」第1巻第6号（47年6月発行）に掲載されているのを、戦時中から戦後の雑誌を研究、収集する東京・立教大の石川巧教授（57＝日本近代文学＝が発見した。（東京報道編集委員　恵本俊文）

連合国軍総司令部（GHQ）が検閲した日本の出版物をコレクションする米・メリーランド大「プランゲ文庫」が収蔵。石川教授が、国立国会図書館が所蔵する同文庫のマイクロフィルムから見つけた。

作品は「車内風景」というタイトルの短編小説。敗戦後の混乱期に函館を出発した主人公が、東京に向かう青森―宇都宮間の鉄道車両の中で体験したさまざまなエピソードを描く。どのような状況下でも何とか生き延びようとする、人間のたくましさやしたたかさがつづられる。

主人公が「鳴海仙吉」と設定されていることから、札幌から列車で函館に来て、青函連絡船を経て上京する伊藤の長編小説「鳴海仙吉」の一部が検閲のため戻らず、書き直して出版された単行本（50年）に収録されなかった内容だった可能性が高い。「車内風景」は、伊藤整研究の第一人者で全集刊行後も未収録作品を丹念に調べた元日大教授の故・曽根博義さんが編集した「伊藤整未刊行著作集」（94年）にも収録されていない。

いとう・せい　渡島管内松前町生まれ、1歳で小樽市塩谷に移住。小樽高商（現小樽商大）卒業後、東京商大（現一橋大）中退。小樽市中学（現・長橋中）教諭時代の1926年、詩集「雪明りの路」を出版。上京後に小説、翻訳などでも活躍。50年に「チャタレイ夫人の恋人」の翻訳本がわいせつ文書だとして警視庁に摘発され、最高裁まで争った。「日本文壇史」で63年に菊池寛賞。日本近代文学館の第2代理事長を務めた。

内容見本

北國のこころ

神保光太郎

北國の子供たちはいつも南の空をながめる
南の空には太陽が住んでゐる
いつも花盛りである
蜜柑が實り　レモンの香りがただよふ
あたたかい南の國
北國の子供たちはいつも南の空をながめる

北國の子供たちはいつも南の空をながめる
雪は山々に荒れ　風は頬に冷たい
學校へ行く道も消えた
春はとほい　ほんとにとほい
さむいさむい北の國
北國の子供たちはいつも南の空をながめる

北國の子供たちはいつも南の空をながめる
冬にまけるな　道をさがさう
この雪の枯野に新しい旗を樹てよう
凍つた旗のかげから渦巻きあがるもの
忘れられぬ春への誓ひ
北國の子供たちはいつも南の空をながめる

目次

（小説）暁……加藤武雄…2
（小説）ダンサー……倉光俊夫…26
（コント）ひとのとし……乾信一郎…12
（絵と文）雑のある風景……石川滋彦…10
（コント）人肌観音……伊馬春部…14
随　あんま……内田誠…18
俳　函館屋のおばあさん……山口青邨…19
俳　あかざの中毒……服部鷹夫…21
（生態描写）レビューガール……霜野二一彦…16
（映画時評）新入撞頭の息吹き……飯田心美…24
仏獨婦人氣質……茂木政…9
公職追放物語……丸山靜雄…22
この頃思ふこと……和田驥…5
同……市川春代…23
詩……神保光太郎…1
（俳句）……金子兜太…8
帯磁集……32
表紙……藤田嗣治　カット……大川一夫